

私の目から見る日本と外国



クレア・サマーズ

私の目は38年の間に様々な文化を見ましたが、私はまだ世界の新人だと思います。イギリスで生まれ育ちましたが、大人になってからはほとんど外国に住んでいます。日本が一番長いですが、アフリカのマラウイという国にも住んだことがあります。チャンスがあれば、旅行にも行く事が多いです。3年前はインドに行きました。イギリスでの仕事が終わって、日本に帰る途中のことで、時間たっぷりの7週間の観光旅行でした。ほとんどの時間を北インド、特に西北インドで過ごしました。ここにはチベットの難民が数多くいます。このグループの中の一人がダライ・ラマです。彼の住んでいる地域に行った時、彼のすばらしい詩を見つけました。詩の題名は「現代の矛盾」です。初めて読んだとき、とても感動しました。私には、長期の海外滞在経験が二つあります。一つは発展途上国で、一つは先進国です。それはマラウイと日本です。ダライ・ラマは想像しなかったかもしれませんが、この二つの国の事が「現代の矛盾」に入っています。私が日本と外国で得た経験の結果を、この詩はぴたりと表しています。

一行目はこうです。

「大きくなった家、少なくなった家族、便利になって、時間がない」

日本の家は大きくなっていませんが、家族は本当に少なくなってきています。日本の人口は毎年100万人減るそうです。「便利になって、時間がない」のは本当に不思議な現代の矛盾です。日本でコンビニのない生活はたぶん想像できません。コンビニは色々な事ができて利便性が高いです。一回で電気代の支払いをして、遊園地のチケットやお弁当を買って、コピーをしたりします。では、そのあと家でゆっくりすることができるのでしょうか。実は違い

ます。仕事をすればするほど仕事が増えます。家に着いたら、リラックスの代わりに、他にしなければならないことをします。結果は、「やあ、今日は忙しかったね、疲れた！」と言います。イギリスと日本はそうだと思います。しかし、マラウイは違います。日本やイギリスでは当たり前の便利さがありませんから、なんでも時間かかります。一日でたくさんの事はできません。結果は、「やあ、今日はゆっくりしたね」と言います。

知識は懐刀といわれていますがダライ・ラマはこう綴っています。

「増える学位、鈍くなる感性、増す知識、衰える判断力、増える専門家、増える問題、増える薬、損なわれる健康」

本当にそうだと思います。2011年3月11日の原発事故に例えたら分かるでしょうか。災害が多い国で原子力をつくるのは衰えた判断力だと思います。イギリスも様々な分野で世界一ですが、社会問題、たとえば2011年の暴動のような問題も増えています。新たな病気、たとえばアレルギーも増えています。昔の人はアレルギーで苦しんでいたでしょうか。いいえ。マラウイで私は一回もアレルギーを見たことはありません。

「はるか月まで行って帰ってくる時代、新しい隣人に会うために道一つ越えられない」

ダライ・ラマはこうも書いています。今日、外はとても暑いですが。私が涼しい部屋でこの作文を書いている間、日本では、一人暮らしのお年寄りが熱中症で何人死ぬか分かりません。なぜなら、近所の人「道一つ越えられない」のですから。日本やイギリスのような先進国では、私たちは、お金はありますが、多くの人が孤独です。私はマラウイで一度も孤独を感じたことはありませんでした。近所の人や友人がいつも私の家にいました。私は教師をしていたので、その時は生徒もたくさん私の家に来ていました。先進国は発展途上国にどうやったらお金持ちになれるかを教えています。でも、私は、発展途上国の人たちにどうやったら絆を大切にできるかを教えてもらいたいです。

詩の後半はほとんど絆と、人と人のコミュニケーションについて書いています。

「情報を蓄え、複製するためにコンピューターを作り、真のコミュニケーションは減る、私達は量を重んじ、質を軽んじるようになった」

これは、最近世の中にぴったりだと思います。私はパソコンをぬきには生活できません。パ

ソコンがありますから色々な人に連絡ができます。昔のマラウイの生徒、中学校性時代の友達などと E メールや「facebook」でコミュニケーションがとれます。インターネットのおかげでイギリスの家族と顔を見ながら話せるのでとても感謝しています。しかし一方で、私のコミュニケーションは貧しくなりました。マラウイと以前のイギリスでは相手の顔を見ながらのコミュニケーションが普通でした。近所の人と道路で偶然に会って、おしゃべりすることができました。数年前の日本もそうだったかもしれません。相手の本当の気持ちが分かりたかったら、本人との会話が一番いいと思います。本当の気持ちが分かったらもっと深い絆が築けます。最新技術が増えるにつれ、無意識のうちに絆は弱くなります。電話は声は聞こえるけど顔が見えません。E メールを使用したらコミュニケーションの貧困化はますます進みます。自分の言いたいことが長く書けますが、顔も声もありませんから。最新技術の携帯メールや「facebook」は顔も声もない上、短い文で自分の気持ちを伝えなければなりません。友達の量を重んじるならば「facebook」や E メールはすごいとは言えますが、友達の質を軽んじる傾向が増してしまいます。私の経験から言えば、発展途上国と先進国の間には貧富の差だけでなく、大きな絆の差もあります。

詩の最後の言葉はこうです。

「ファーストフードと消化不良の時代、大きな体と狭い心、伸びる利益、そして薄まる絆、ショーウィンドーに多くのものが陳列されていて、倉庫には何も無い、これが我々の時代だ」

ダライ・ラマは我々の時代と書いていますが、まだ発展途上国はそこまで至ってはいないと思います。もちろん、マラウイ人の人生が完璧なわけではありません。私がマラウイに住んでいた時、近所のほとんど人や生徒たちはその日その日を暮らしていました。十分な食べ物と住むところがあって、何も起こらなければ問題ありませんが、セーフティーネットがないのです。一度病気になれば、医療を受けるだけの余裕はありませんし、病院には十分な薬や医者がいません。気候がよくなければ、作物はできず、食べ物を買うための貯金もありません。

ですがマラウイ人は、金銭的なセーフティーネットがなくとも、とても強い絆をもってい

ます。ですから、社会的なセーフティーネットを持っているといえるでしょう。このようにして、彼らは生活してきました。何か問題が起こったときは、お互いに助け合います。私はマラウイで、これが一番好きでした。

多くの人は発展途上国の人々が苦しんでいると思っています。これは嘘ではありませんがダライ・ラマの「現代の矛盾」を読んだら、日本とイギリスのような先進国も絆の欠如で苦しんでいると思います。ですが、誰も気がついてないのか、私の周りにはいる人達はお金とか家を建てる事とか、物質的なことばかり考えているようです。もちろん、私もお金と新しい家が欲しいけれど、私にとっては、自分がどんなものを持っているかより、人との絆の方がずっと大切です。お金と新しい家のことばかりを考えていたら絆の欠如の問題は解決しません。問題を解決するためには、まず、その問題に気づかなければなりません。イギリスと日本では、多くの人は、自分が孤独だと自分で気がつきましたが、その孤独の原因には気がついていません。では、絆の欠如が原因だと分かったら、誰かと一緒に絆を作ろうと頑張るのでしょうか。現代の人々は絆の欠如を気づかず、反対に孤独を、ものを買うことでなくしたいように見えます。そうすると、ダライ・ラマが言う通り、「ショーウィンドーに多くのものが陳列されていて、倉庫には何も無い」状態になります。

たしかに、先進国では絆を作るのは、すごく難しいです。一人が絆の欠如に気がついただけでは何も変わりません。皆が気がつかないとだめです。その上、皆が気がついて、一人だけが行動をしたのでは何も変わりません。この問題を解決するには、まず皆が気づいて、一緒にその絆の欠如を直さなければなりません。どうやって皆に気づかせるのでしょうか。皆いつ気がつくのでしょうか。あるネイティブアメリカンはこう言いました。「最後の木が伐り倒され、最後の川が汚染され、最後の魚が捕獲され、そうして初めて、我々はお金が食べられないと気づく。」

発展途上国が、先進国に絆の大切さを教えたらいいと書きましたが、面白いことに、絆を持っている人も、絆の大切さに気がついていません。マラウイ人にとって絆は当たり前ですから。色々な立場から考えても、先進国の人々が絆に気づくためのいい解決方法は本当は見つけないのですが、私の場合、私の目で両方の側、発展途上国と先進国を見て、経験したことで絆

の大切さに気がつきました。他の人も同じ方法で絆の大切さに気がつくかもしれません。皆が両面を、自分自身の目で見るとは、人の人生にとって意義深いことだと思います。ダライ・ラマ法王もそう思われるのでしょうか。